

## 概念を習得し，学習内容の本質を深く理解する

平成 29 年学習指導要領「B 衣食住の生活 (2)調理の基礎」の「ア(エ)材料に適したゆで方，いため方を理解し，適切にできること。」では，「ゆでる材料として青菜やじゃがいもなどを扱うこと。」が示されています。先生方も，調理実習で，ほうれんそうやじゃがいもをゆでる学習に取り組まれていることでしょう。7月に「令和4年度実施 小学校学習指導要領実施状況調査の一部結果（速報版）」が報告されました。家庭科では，ゆでる調理の理解を確認する問題が出題され，つぎのような結果が示されています。

ほうれんそうとじゃがいもをゆでるときのゆで方（「A 水からゆでる」「B ふっとうした湯でゆでる」とゆでた後のさまし方（「C 水につける」「D ざるに移す」）について，よりふさわしい方法を1つずつ選び，選んだ理由を書く。

### <ほうれんそうのゆで方>

- ・ふさわしいゆで方の選択／その理由の説明 【通過率 選択：70.2% 説明：28.3%】
- ・ゆでた後の冷まし方の選択／その理由の説明 【通過率 選択：54.0% 説明：12.0%】

### <じゃがいものゆで方>

- ・ふさわしいゆで方の選択／その理由の説明 【通過率 選択：60.0% 説明：17.7%】
- ・ゆでた後の冷まし方の選択／その理由の説明 【通過率 選択：55.7% 説明：12.8%】

この結果から，ゆで方や冷まし方を選択できても（事実的な知識），理由（根拠）を正しく記述できていないことが読み取れます。理由を適切に説明できるようにすることは，個別の事実的な知識を，概念として習得するために重要です。概念を習得することができれば，他の多くの食材をゆでたり，冷ましたりすることができるようになります。家庭科の学習内容の本質を深く理解するために，概念の習得に向けた学習指導が期待されます。

静岡大学学術院教育学領域教授 小清水貴子

【参考資料】 [https://www.mext.go.jp/content/20240710-mxt\\_kyoiku01-000037001\\_02\\_2.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20240710-mxt_kyoiku01-000037001_02_2.pdf)

## 西都台小 5年「食べて元気に」

### 【実践内容】

本学習では、3つの食品グループや五大栄養素を知り、食品に含まれる栄養素の主な働きや、食品のグループ分けと栄養バランスの良い食事の仕方が分かることを目標としている。生活経験の有無や家庭環境により、個人差が大きいことから、題材を構成したり、内容を工夫したりする必要があると考え、以下のように実践した。

#### (1) パンフレットの活用と栄養教諭との連携

「目指せパーフェクト朝ごはん」のパンフレットを活用して、自分の朝食のあり方についての振り返りを2回実施した。1回目の調査は学習前に行い、専門的な知識が豊富な栄養教諭にも授業に参加してもらい、3つの食品のグループとその働きについて学習を進めた後、2回目の調査を行った。

#### (2) タブレットの活用

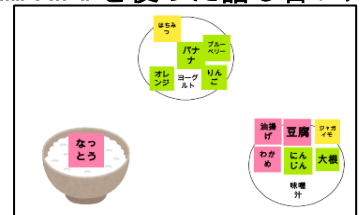
「パンだけ」「ごはんだけ」の朝ごはんは何を加えたらパーフェクト朝ごはんになるのかを考えた。個人で考えたものを紹介し、班で意見を出し合いながら、Jamboardを活用して、パーフェクト朝ごはんを作成した。



### 【成果】

専門的な知識が豊富な栄養教諭の協力により、身近な給食についての話にも触れ、栄養バランスの必要性をより感じる事ができた。その際、パンフレットを活用したことにより、各家庭で朝食の在り方を見直して改善したり、目標を立てたりすることができた。また、タブレットの活用により、朝食の在り方について考えを共有し合ったり、よりよい組み合わせを考えたりすることができ、大変効果的であった。

#### <Jamboardを使った話し合い>



(文責：宮下 美紀)

## 芳川北小 発達支援学級5年「ソーイング はじめの一步」

### 【実践内容】

本学習では、林間学校で使うためのポケットティッシュカバーを作る活動を行った。

#### (1) 飾りとなる玉結びや玉どめを用いた作品作り

教科書の例を見て、自分が作りたいものを選んだ。玉結び・玉どめは、個人差があったため、教科書の動画を見て行う児童と教師と共に行う児童とで、分かれて作業をした。



<飾りとなる作品>

#### (2) ポケットティッシュカバー作り

まず、ポケットティッシュのサイズを測り、チャコペンシルで印をつけた。次に、なみ縫いで周りを縫う作業を行った。縫う場所が分からなくなる児童が多かったため、担任と共に付けた印に沿って縫うことにした。最後は、返し縫いで自分の名前のインシヤルの縫い取りを行った。返し縫いの際も、針を刺す位置が分かるように、印を付けた。



<児童が作品を縫う様子>

### 【成果】

飾りとなる作品を作る中で、玉結びや玉どめの技能がだんだんと身に付いていき、「玉どめが上手にできた。」「最初より出来ている。」と、自信をもったり、喜んだりしている児童の姿が見られた。また、林間学校で使うという目的があったため、どの児童も自分ごととして取り組むことができた。

(文責：松本茅世)

## 小学校家庭科研究部 第2回研修会報告

令和6年8月2日（金） 教育センター研修室

### 小中家庭科合同研修内容

#### ○実践発表

「自分の生活をレベルアップさせるためのオリジナルバッグを作ろう！」

可美小学校 杉本 朱里 教諭

「生活を支えるお金と物」～エシカル消費を考えた買い物計画～

和地小学校 大谷 彩乃 教諭

「生活の営みにかかわる見方・考え方を働かせながら、課題解決に向かう過程を重視した授業づくり」～自分の思い描く未来のマイホームとは～

浜北北部中学校 松下 千裕 教諭

#### ○講話

「学校における消費者教育について」

浜松市くらしのセンター 山田 真代子 氏

#### ○小中合同情報交換会

自校における家庭科の実践について

#### ○実技研修（小学校）

学生協の家庭科教材と裁縫用具を活用した小物作り

### ○実践発表 指導講評 <瑞穂小学校 柳瀬 美穂 校長>

「自分の生活をレベルアップさせるためのオリジナルバッグを作ろう！」

可美小学校 杉本 朱里 教諭

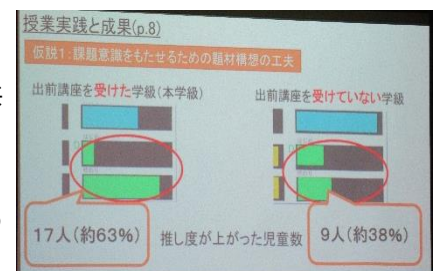
- ・最後まで粘り強く取り組む姿を目指し、それが実現した授業となった。
- ・導入時に教師が自分のバッグを提示し、もっとこうだったらいいなと思う点を伝え、子供の「こんなバッグを作りたい」という思いを引き出した。
- ・生地の実物見本を提示することで、子供たちがイメージを膨らませることができた。
- ・トートバッグ作りで基本の技を見付け、その後のオリジナルバッグ作りに生かしていくという2段階構成の題材計画が素晴らしいかった。



「生活を支えるお金と物」～エシカル消費を考えた買い物計画～

和地小学校 大谷 彩乃 教諭

- ・子供たちが自ら考え選択する力を高め、自立した消費者を目指す教育活動であった。
- ・「推し度」をメーターで表し可視化することで、評価や理由付けが明確に示されていた。
- ・筆箱の実物を活用し、タブレットのオクリンクで考えを共有することで、主体的、協同的な学びにつながっていた。
- ・「エシカル消費」という言葉が新しい教科書に加わった。今後も、これらの実践を生かして、よりよい消費生活につなげていくことが大切である。



「生活の営みにかかわる見方・考え方を働かせながら、課題解決に向かう過程を重視した授業づくり」～自分の思い描く未来のマイホームとは～  
浜北北部中学校 松下 千裕 教諭

- ・子供たちが「自分だったらどうしよう」と主体者になって考えられる授業だった。
- ・資料を生徒のタブレットにも配信することで、いつでも各自のタイミングで課題を見返すことができ、主体的に課題解決に向けた学習を進める態度を育むことができた。
- ・少子高齢化の進展に伴った家族構成の変化や予期せぬ災害に備えるための安全対策が不可欠な現代の状況を踏まえ、これからも「命にかかわる住まい方」について考えさせていくことが大切である。



### ○講話 「学校における消費者教育について」

浜松市くらしのセンター 山田 真代子 氏

新しい教科書では「C消費生活・環境」が4ページ増加した。理由としては、消費トラブルの増加、消費が環境へ及ぼす影響力の増大、持続可能な社会の実現に向けて取り組みの強化などが挙げられる。実際に中学生の間では、オンラインゲームでの課金や化粧品・健康食品の購入トラブルが非常に増えている。その現状から、状況を改善していくためにも家庭科での消費者教育の役割は大きい。学校への出前講座や消費者教育教材の活用はもちろん、消費者教育はすべての年代にかかわる教育でもあるため、積極的にくらしのセンターを利用してほしい。



### ○小中合同情報交換会

同じ中学校区や近隣の学校で構成されたグループになり、小中合同で情報交換をした。また、家庭科の授業について、自校で実践したことなどを紹介し合った。

授業の中で活用した家庭科教材や授業での工夫について話し合うことにより、これからの授業に生かすヒントを得ることができた。



《情報交換の様子》

### ○実技研修（小学校） 指導講評 <横山小学校 長坂 麻里子 校長>

学生協の家庭科教材と裁縫用具を活用した小物作りを行った。家庭科教材に入っているフェルトに、好きな色のフェルトを1枚プラスして組み合わせやデザインを考えながら、各自で小物を作った。グループの仲間とコミュニケーションを取りながら情報交換をしたり、作った作品を見せ合ったりすることでアイデアを膨らませたり、共有したりすることができた。



「こんなものを作りたい、こんな実習をしてみたい、と2学期につながるヒントを得ることができたと思うので、子供たちへの指導にぜひ生かしてほしい。」と長坂校長より助言をいただいた。

## 《実技研修の様子》



### 【編集後記】

実践紹介では、パンフレットや Jamboard を活用してパーフェクトな朝食を考えたり、林間学校で使うという明確な目的をもった小物作りをしたりと、子供たちが意欲的に取り組める工夫がたくさんありました。

今年度の夏の研修では、小中学校両方の実践発表を聞いたり、小中学校の教員が集まって情報交換をしたりして、改めて小中の連携の大切さを感じました。実技研修では、学生協の裁縫セットを使って、小物作りに取り組みました。フェルトを使った小物のアイデアをたくさん知ることができました。

鈴木 あゆみ（上島小）